

整理番号 01475

作成：平成 23 年 6 月 17 日
最終改訂：令和 6 年 5 月 21 日

製品安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名（化学名、商品名等） **Copper Oxide (Wire)**
銅 オキシド（ワイヤー）

販売者情報	会社	LECO ジャパン合同会社
	住所	〒105-0014 東京都港区芝 2 丁目 13 番 4 号 住友不動産芝ビル 4 号館
	担当	SDS 担当者
	電話番号	(03) 6891-5800 FAX 番号 (03) 6891-5801
製造者情報	会社	LECO Corporation
	住所	3000 Lakeview Avenue St. Joseph, Michigan 49085, U.S.A
推奨用途		分析試験用
使用上の制限		推奨用途以外で使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性	急性毒性（吸入・粉じん）	区分 4
	皮膚感作性	区分 1A
	特定標的臓器単回暴露	区分 1（全身）
	特定標的臓器単回暴露	区分 3（気道刺激性）
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1

ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

吸引すると有害。アレルギー性皮膚炎を起こすおそれ。
全身の障害。呼吸器への刺激の恐れ。水生生物に非常に高

い毒性。長期的影響により水生生物に非常に高い毒性。

注意書き

【安全対策】

取扱い後は良く手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

適切な保護メガネ、保護面を着用すること。

粉じん、蒸気、ヒューム、スプレーを吸引しないこと。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。

吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

眼に入った場合、水で数分間良く洗うこと。

次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

ばく露した場合、医師に連絡すること。

漏出物は回収すること。

【保管】

容器を密閉し、乾燥した場所で保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成・成分情報

化学物質・混合物の区別	：混合物	
化学名	：酸化銅(Ⅱ)	酸化銅(Ⅰ)
成分及び含有量	：99%以上	少量
CAS No.	：1317-38-0	1317-39-1

※特定の成分、含有量は企業秘密として公表を差し控えています。

官報公示整理番号（化審法・安衛法）	：(1)－297
安衛法通知対象物質	：第379号 銅及びその化合物
PRTR法	：対象外
国連分類及び国連番号	：3077
毒物劇物取締法	：非該当

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	水と石鹼で洗うこと。 気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗う事。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状	吸入：咳、咽頭痛、金属ヒューム熱、金属味 皮膚：皮膚の乾燥 眼：発赤、痛み 経口摂取：腹痛、下痢、吐き気、嘔吐、金属味
応急措置及び特別注意事項	症状に応じた一般的な対症療法を行う。被災者の体を温める。被災者から目を離さない。
一般情報	関連製品の情報を医療関係者へ周知し、適切な予防措置を取る事。

5. 火災時の措置

消火剤	周辺火災に応じた消火剤を使用する。
使ってはならない消火剤	入手不可
特有の危険有害性	火災により有害なガスを発生する恐れがある。
消火を行う者の保護	火災時には自給式呼吸器と全身の保護衣を着用。
消火器具及び方法	適切な保護衣を着用し、未開封容器は水スプレーで冷却する。
特有の消火方法	通常 of 消火方法を取りその他の関連する危険物を考慮する。
火災の危険性	特別な火災及び爆発の危険性無し。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急措置	関係者以外を退避させる。全ての着火源を取り除く。 換気を良くする。適切な保護衣及び保護具を着用して回収作業を行う。
回収方法及び道具	ダストを空気中に散布しない。(圧縮空気で吹き飛ばすなど) 掃き集める、又は掃除機で吸引し廃棄に適した容器に集める。
環境に対する注意事項	排水、水路及び地面への排出を防ぐ。環境への排出があった場合、適切な管理者、又は専門家に報告する。

7. 取扱い及び保管上の注意

安全取扱注意事項

ダストの発生、蓄積を最小限に抑える。ダストが発生する場所には適切な換気設備を設ける。眼、皮膚、衣類への接触を防ぐ。ダストの吸引を避ける。長期間のばく露を避ける。産業衛生に気を配る。取扱い後は良く手を洗う。環境へ排出しない。

安全な保管条件

製品の入っている容器のまま密閉し、涼しく乾燥した場所で保管する。直射日光、吸湿を避ける。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度（ばく露限界値）

US. ACGIH（産業衛生専門家会議）

成分	タイプ	値	形状
酸化銅(II) CAS : 1317-38-0	TWA	1 mg / m ³	ダスト・ミスト
		0.2 mg / m ³	ヒューム
酸化銅(I) CAS : 1317-39-1	TWA	1 mg / m ³	ダスト・ミスト
		0.2 mg / m ³	ヒューム

US. NIOSH（化学物質の危険有害性ポケットガイド）

成分	タイプ	値	形状
酸化銅ワイヤー	TWA	1 mg / m ³	ダスト・ミスト
酸化銅(II) CAS : 1317-38-0	TWA	0.1 mg / m ³	ヒューム
酸化銅(I) CAS : 1317-39-1	TWA	1 mg / m ³	ダスト・ミスト

生物学的限界値

生物学的ばく露限界値は設定されていない。

設備対策

十分な換気を行う事で、取扱いや熱処理で発生するダストやヒュームを効率的に取り除き、蓄積を防ぐ。

保護具

眼/顔の保護

サイドシールド付の保護メガネ、又はゴーグル。

皮膚の保護

手

適切な保護手袋を着用する。

その他

適切な保護衣を着用する。

呼吸器の保護

換気が不十分な場合、防塵マスク等適切な保護具を着用。

熱からの保護

必要に応じて熱保護衣を着用する。

一般的な衛生対策

飲食はしないこと。飲食や喫煙の前に手を洗うなど、常に衛生環境に気を配る。作業着、保護具類は定期的に洗濯清掃する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

形状	固体
色	黒色
臭い	入手不可
融点・凝固点	1083 °C
沸点又は初留点及び沸騰範囲	2595 °C
可燃性	入手不可
爆発下限及び爆発上限界/可燃限界	入手不可
引火点	入手不可
自然発火点	入手不可
分解温度	入手不可
pH	入手不可
動粘性率	入手不可
溶解度	不溶
n オクタノール/水分配係数	入手不可
蒸気圧	入手不可
密度及び／又は相対密度	6.48 g/cm ³ (20°C) 推定
相対ガス密度	入手不可
粒子特性	入手不可

10. 安定性及び反応性

反応性	入手不可
化学的安定度	入手不可
危険有害反応可能性	金属粉、カリウム、水素、及び無水フタル酸との接触による爆発の危険。
避けるべき条件	水分。混触危険物質との接触。ダストを空中に散布しない。 (圧縮空気でダストを吹き飛ばすなど。)
混触危険物質	ホウ素、ヒドラジン、マグネシウム、ナトリウム、ジクロロメチルシラン、フッ素、硫化水素、水素化ストロンチウム、ヒドロキシアミン
有害な分解生成物	有害な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

起こりうるばく露に関する情報

吸入	ダストが呼吸器系に刺激を起こす恐れ。
皮膚	ダスト又は粉末が皮膚に刺激を起こす恐れ。
眼	ダストが目刺激を起こす恐れ。
飲み込んだ場合	飲み込むと有害
物理的・化学的・有害性特性に関連した症状	入手不可
毒物学的影響に基づいた情報	
急性毒性	吸引すると有害

成分	毒性	種	結果
酸化銅 (I) CAS No. 1317-39-1	急性 経口 LD50	ラット	0.47g/kg

※製品評価にはデータとして記載されていない追加成分をベースにしている場合があります。

皮膚腐食性/刺激性	入手不可
重篤な眼の損傷性/眼刺激	入手不可
呼吸器又は皮膚感作性	
呼吸器感作性	入手不可
皮膚感作性	アレルギー性皮膚炎を起こすおそれ
生殖細胞変異原性	入手不可
発がん性	
IARC 研究論文、Overall Evaluation of Carcinogenicity	入手不可
OSHA 特定規制物質 (29CFR 1910.1001-1050)	記載なし
US. National Toxicology Program (NTP) Report on Carcinogens	入手不可
生殖毒性	入手不可
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	全身の障害。呼吸器への刺激の恐れ。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	入手不可
誤えん有害性	入手不可
慢性的な影響	気管システムへの変異/ダメージ、機能不全。神経、血液 肝臓、腎臓及び消化器系へのダメージ。皮膚及び毛髪 の暗緑色への変色。ヒュームを吸い込んだ場合、金属 フューム熱。

12. 環境影響情報

生態毒性

酸化銅(II) CAS 1317-38-0 水生

成分	種	結果
甲殻類 EC50	ミジンコ (<i>Daphnia magna</i>)	0.011 – 0.039 mg/l, 48 時間
魚類 LC50	西洋モスキートフィッシュ (<i>Gambusia affinis</i>)	> 56000 mg/l, 96 時間

※ 製品評価にはデータとして記載されていない追加成分をベースにしている場合があります。

残留性/分解性	この製品の分解性に関するデータなし
生体内蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	入手不可
その他の有害影響	この製品による環境への悪影響（例えばオゾン層破壊、光化学オゾン生成、内分泌かく乱、地球温暖化など）は考えられていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄手順	内容物/容器の廃棄は地域/国/国際的規制に従う。
危険廃棄物コード	使用者、生産者及び廃棄物業者間で協議し、廃棄物コードを割り当てること。
残余廃棄物/未使用製品	空容器には内容物が残っている場合がある。この製品及び容器は安全な方法で廃棄すること。
汚染容器及び包装	空容器のリサイクル及び廃棄は、認証を受けた廃棄物処理業者に委託する。

14. 輸送上の注意

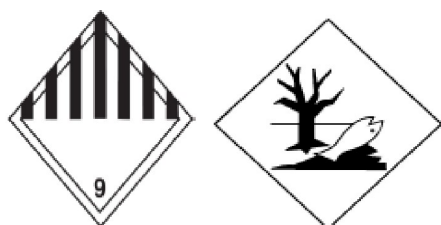
DOT (米国運輸省)	
UN ナンバー	UN3077
UN 正式輸送名称	環境的に危険な物質、固体、n.o.s (酸化銅)、海洋汚染物質
輸送危険クラス	
クラス	9
付随するリスク	-
ラベル	9
包装グループ	III
取扱者への注意事項	安全取扱い説明書、SDS 及び緊急時の手順書を製品の取扱い前に読むこと。
IATA (国際航空運輸協会)	

UN ナンバー	UN3077
UN 正式輸送名称	環境的に危険な物質、固体、n.o.s (酸化銅)
輸送危険クラス	
クラス	9
付随するリスク	-
包装グループ	III
ERG コード	9L
取扱者への注意事項	安全取扱い説明書、SDS 及び緊急時の手順書を製品の取扱い前に読むこと。

IMDG (国際海上危険物規定)

UN ナンバー	UN3077
UN 正式輸送名称	環境的に危険な物質、固体、n.o.s (酸化銅)、 海洋汚染物質
輸送危険クラス	
クラス	9
付随するリスク	-
包装グループ	III
取扱者への注意事項	安全取扱い説明書、SDS 及び緊急時の手順書を製品の取扱い前に読むこと。

DOT ; IATA ; IMDG 海洋汚染物質



15. 適用法令

[酸化銅(II)、酸化銅(I)]

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2、
施行令第 18 条の 2 別表第 9）（政令番号：9-379）
規則第 594 条の 2 皮膚等障害化学物質等

16. その他の情報

参考文献

本製品の英文 SDS (091418) : LECO Corporation

JIS Z7252 (2019) GHS に基づく化学品の分類方法

JIS Z7253 (2019) GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、
作業場内の表示および安全データシート

化学便覧

: 丸善

銅酸化物(ワイヤー) P/N: 502-190

職場の安全サイト : 厚生労働省
NITE 化学物質総合情報提供システム : 独) 製品評価技術基盤機構

作成	平成23年6月17日	
改訂	平成23年7月11日	住所変更
	平成29年1月31日	書式、法令見直し
	令和元年6月21日	法令見直し
	令和3年8月20日	法令見直し
	令和4年2月10日	法令見直し、2019年版JIS対応
	令和6年5月21日	法令見直し

- * 記載内容は、現時点で入手できた資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますが、必ずしも万全なものではなく、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。製品の取扱いには十分に注意してください。尚、新たな情報を入手した場合は、追加又は訂正することがあります。